

小学校事例 1

誕生・成長の喜び—たまごの世話をする体験を中心に—

三田市立武庫小学校第3学年

1 テーマ

誕生・成長の喜び—たまごの世話をする体験を中心に—

2 実践のねらい

家族への聞き取りや手形の年表づくりをとおして自分の誕生や成長を振り返り、自分を支えてくれている周囲の人たちの思いや願いを理解する。さらに、たまごの世話をするという体験をすることで、自分の命が大切に育まれたものであることを実感し、自分を大切に生きていこうとする意欲を持つ。また、命は失われると二度と取り戻せないものであることがわかり、他者の命も自分の命と同様にかげがえのないものであることに気づく。

3 テーマ設定の理由

(1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は学級数 21（障害児学級 3 クラス含む）、児童数 635 人。北摂三田ニュータウンで最初の小学校として創立 25 周年を迎えた。3 年生は 3 クラス 110 人で、児童数が多い学年である。

3 年生になった当初は自己中心的な行動が目立つ子どもたちが多かった。遊びの場でも自分の思いが優先し、まわりの気持ちを考えないことによるもめ事が多発していた。2 学期になって子どもたちはクラスの友だちを知っていくことで次第に集団遊びが出来るようになり、様々な行事や活動をとおして、仲間意識が芽生えてきた。

自分のことで精一杯だった低学年の延長からぬけ出し、友だちとの関わりの中での自分や、クラスの集団の中での自分を意識し始めるこの時期の子どもたちには、「自分はどれくらい周囲に受け入れられているのだろうか」「自分にはどんな価値があるのだろうか」といった漠然とした不安感がある。

このような子どもたちの状況を踏まえ、今必要なことは、一人ひとりが大切な命であることを実感させ、自尊感情を高めていくことだと考えた。そこで、この実践に先だって命（死）に対する意識と自尊感情についてのアンケートを行った。長崎県教育委員会の意識調査（小 4・小 6・中 2 対象 2005 年）では「死んだ人が生き返る」と思っている子どもが 15.4%いた。本校での同じ質問でも、「生き返る」と答えた子どもは 10.6%いた。「わからない」と答えた子どもは 21.8%で、約 3 分の 1 の子どもは命の有限性や死の絶対性についての認識があやふやであると思われる。そこで自分の誕生や成長を振り返ることをとおして、命の大切さを感じ取らせる学びの場が必要であると考え、今回のテーマを設定した。

(2) 指導のポイント

【感動の体験】

- ・いろいろな年令の人の手形を見比べて、命の誕生や成長について考えさせる。
- ・手形の年表づくりをとおして、自分の成長について実感し、自分を支えてくれている周囲の人たちの思いや願いに気づかせる。

【感性を育む】

- ・助産師から生命誕生やお腹の中での赤ちゃんの様子についての話を聞き、生命誕生の神秘性を感じ取らせたり、母親や周囲の人たちの心配や苦勞に気づかせたりする。
- ・自分自身に見立てたまごを作り、大切に世話をする体験をとおして、自分を慈しんでくれる家族の思いや願いを実感させる。

【想像力の育成】

- ・たまごの世話をする体験をしながら、大切に育まれている自分の命のかげがえのなさを実感する。
- ・たまごを入れるタイムカプセルを作ることで、自分の未来やこれからの生き方について思いをはせさせる。

- ・友だちの手形の年表を読ませ、自分も友だちも同じように大切に育てられている命であることに気づかせる。

4 事前

(1) 先生の準備

- ・授業の中だけでなくすべての教育活動の中で、命を大切にしていこうとする視点や姿勢を持つ。
- ・死に対する意識と自尊感情についてのアンケートを実施・考察し、子どもの実態を把握する。
- ・子どもの家庭環境をよく把握し、個別指導や家庭との連携など、十分な配慮をしておく。
- ・子どもの生活に関わりのある人の手形を集めておく。
- ・ゲストティーチャーとして招く助産師と学習の目的など内容の打ち合わせをする。
- ・実際にたまごを製作し、世話をする体験をとおして、方法、期間など子どもの実態に応じた体験の内容を検討する。

(2) 教育課程上の位置づけ

- ・算数
- ・体育
- ・道徳
- ・総合的な学習の時間

(3) 子どもたちの準備

- ・自尊感情を高める体験をする。
- ・生活科での成長アルバム作りなどの活動を思い起こしておく。
- ・植物の栽培活動をする。（種まき、世話、収穫、種取り等）
- ・小動物の飼育体験をする。（チョウやトンボなど昆虫の羽化、メダカの孵化など）
- ・小動物とのふれあい体験をする。（うさぎの抱っこ等）

(4) 家庭・地域との連携

実践の中心的な学習活動は、子ども自身が自分の誕生や成長について親や家族に聞き取りをしていくことである。誕生や成長だけでなく、場合によっては「死」と向き合う体験をし、そうした体験を学習の過程で思い出したり話したりすることが、学習の深まりを生む。ただし、事前には家庭環境等を含んだ子どもの状況を十分把握しておき、個別の配慮に細心の注意を払うことと、保護者への理解と協力を得ることに特に留意する。

今回の実践では「いのち通信」と名付けて学習の内容や目的、経過を保護者にもわかりやすく伝えるようにし、家庭での理解と学習への協力を求めた。また通信には保護者の意見や希望を書く欄を設け、広く保護者の声を聞くように心がける。

5 本校の実践の特色

本単元では手形に注目させ、その手でできるようになったこと、それぞれの年令でのエピソードなどを調べて手形の年表を作る。手形という具体的で視覚的にもその成長を感じることができるものとおして、自分の成長を実感させる。

年表づくりのために、育ててきた親や家族の喜びとともに、子育ての苦労や心配についても注目させる聞き取り活動を設定する。家族からの聞き取り学習をとおして、家族の願いである子どもの健やかな成長の対極に「死」があることを気づかせ、命は失われると二度と取り戻せないかけがえのないものであることを理解させる。

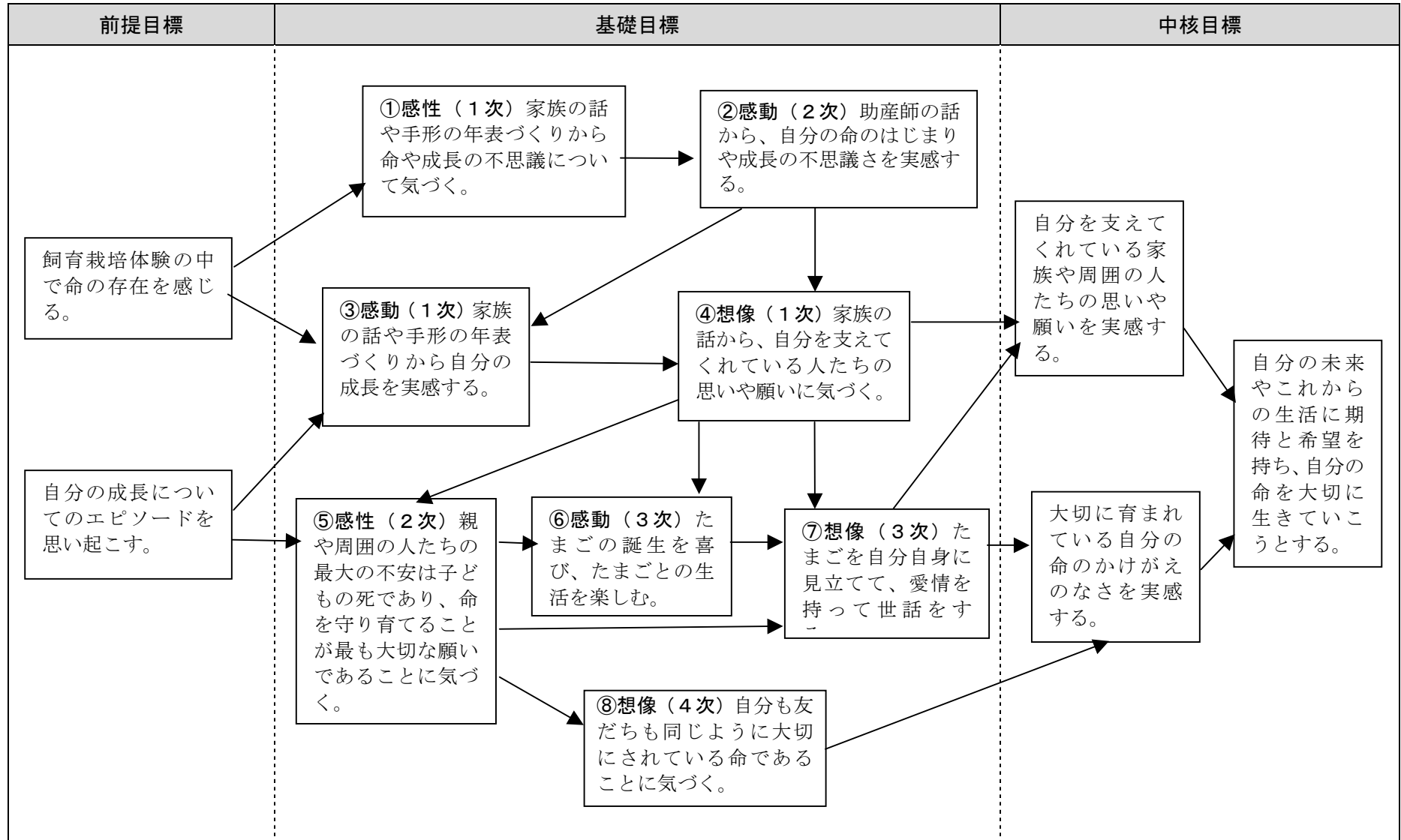
さらに助産師の話から生命誕生や胎児の様子を知り、自分自身に見立てたたまごを大切に世話をする体験をして、自分の命の誕生や成長についてより深く考えさせる。

たまごの世話をする体験では、自分自身の命の象徴としてのたまごを慈しむ体験となるようにする。

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	○自尊感情を高める体験をする。 ○死に対する意識と自尊感情についてのアンケートに記入する。	○今までの成長アルバムづくり等の活動を思い出す。	○命に関わる今までの出来事を思い起こす。 ○自分の成長についてのエピソードを思い起こす。	○飼育栽培体験の中で命の存在を感じる。	
1次 (7時間)	○手形の年表を作る。 ○家族から自分がお腹の中にいた時のことや生まれた時のこと、成長のエピソードなどを聞き取る。	○家族の話や手形の年表づくりから自分の成長を実感する。	○家族の話や手形の年表づくりをおして、自分自身のかけがえのなさを実感する。	○手形の年表づくりから自分の今までの成長やこれからの成長に思いをはせる。 ○家族の話から、自分を支えてくれている人たちの思いや願いに気づく。	○聞き取りをとおして、自分を支えてくれている家族や周囲の人たちの思いや願いに気づかせることができたか。 ○手形の年表づくりをおして、自分の成長を実感させることができたか。
2次 (3時間+課外)	○助産師に生命誕生やお腹の中での赤ちゃんの様子、誕生についての話を聞く。 ○家族への聞き取りを続け、誕生までの親や周囲の人たちの心配や苦勞に気づく。	○助産師の話から、生命誕生の喜びや成長を実感する。	○助産師の話から、生命誕生の神秘性と偶然性を感じ取る。 ○親や周囲の人たちの最大の不安は子どもの死であり、命を守り育てることが最も大切な願いであることに気づく。	○自分がお腹の中にいた時の親や周囲の人たちの思いや願いに気づく。	○助産師の話から命のはじまりやお腹の中での赤ちゃんの成長、誕生について理解させることができたか。 ○生命誕生の神秘性と偶然性を実感させることができたか。 ○聞き取りをとおして、母親や周囲の人たちの思いや願いに気づかせることができたか。
3次 (10時間+課外)	○自分自身の命に見立てたたまごを、大切に世話をする。 ○たまごの世話の様子、楽しさや苦勞などの感想について発表し合う。	○たまごの誕生を喜び、たまごとの生活を楽しむ。 ○たまごの世話をすることで、自分を支えてくれている家族や周囲の人たちの思いや願いを実感する。	○たまごに愛情を持って世話をし、たまごとの生活を楽しむ。	○たまごの世話をすることで大切に育てられている自分の命のかけがえのなさを実感する。	○たまごを自分自身に見立て愛情を持たせることができたか。 ○たまごを大切に世話させることができたか。 ○子どもを育てる親や家族の気持ちを実感させることができたか。 ○家族の理解や協力を得ることができたか。
4次 (5時間)	○たまごを入れるタイムカプセルを作る ○未来の自分に宛てた手紙を書く。 ○手形の年表をお互いに見せ合い、感想を話し合う。	○たまごと別れ、たまごとの生活を振り返る。 ○自分の命を大切に生きていこうとする。	○再びたまごと会う自分の未来やこれからの生活に期待や希望を持つ。 ○感想を話し合うことをとおして、お互いの命の大切さに気づく。	○自分に宛てた手紙を書き、自分の未来やこれからの生活に思いをはせる。 ○自分も友だちも大切にされている命であることに気づく。	○タイムカプセルを作ることで自分の未来に思いをはせさせることができたか。 ○自分の未来やこれからの生活について期待や希望を抱かせることができたか。 ○お互いの命の大切さに気づかせることができたか。
事後	○自分の心の動きを、振り返りカードに記入する。 ○死に対する意識と自尊感情についてのアンケートに記入する。				

7 目標構造図



（凡例）①感性（1次）：「①」は指導の順路、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「（1次）」は学習活動が「1次」であることを示す。

8 事前の教員研修と指導の概要

(1) 事前の教員研修

研修内容	
a	○自尊感情を高める体験をする。 <提言 P64：教員研修テーマ①> ・『わたしはわたしが好きです。なぜなら・・・』 ・『ここがあなたのいいところ』
b	○自己再発見の体験をする。 <提言 P68：教員研修テーマ②> ・『私の人生の振り返り』
c	○自分自身に見立てたたまごを作り、世話をする体験をする。 ・実際に体験することとおして、方法、期間等子どもの実態に応じた内容を検討する。
d	○保護者への協力依頼について話し合う。 ・子どもの聞き取りの内容について ・子どもの家庭環境について ・個別の対応や配慮、支援が必要な子どもについて

(2) 指導の概要（全 26 時間）

内容	
事前	○自尊感情を高める体験をする。 ○命（死）に対する意識と自尊感情についてのアンケートをする 教員研修 a、b、d
1次 （7時間＋課外）	○手形の年表を作る。 1 様々な年齢の人の手形を見比べて、命の誕生や成長について考える。 (1時間) 2 家族から自分がお腹の中にいた時のことや生まれた時のこと、成長のエピソードなどを聞き取る。 (課外) 3 成長のエピソードを発表し合い、病気やけが、事故など命を脅かすものに対して家族がどんなに心配したかに気づく。 (1時間) 4 聞き取ったエピソードをもとに、手形の年表を作る。 (5時間)
2次 （4時間＋課外）	○助産師に命のはじまりやお腹の中での赤ちゃんの様子、誕生についての話を聞く。 1 卵子と精子の受精の瞬間から命のはじまることや、胎児の成長の様子について知る。 (2時間) 2 家族への聞き取りを続け、誕生までの母親や周囲の人たちの心配、苦労を知ること、最大の不安は子どもの死であり、命を守り育むことが最も大切な願いであることに気づく。 (課外＋1時間) 3 聞き取ったエピソードをまとめる。 (1時間)
3次 （10時間＋課外）	○自分自身の命に見立てたたまごを作り、大切に世話をする体験をする。 1 家族への聞き取りを振り返って、子どもを育てる親や家族の気持ちを想像し、話し合う。 (1時間) 2 紙粘土に自分だけの模様をつけ、中に自分の秘密と心臓に見立てたハート形を入れてたまごを作る。 (4時間) 3 たまごの部屋や育児日記を作る。 (4時間) 4 自分が親や家族にしてもらっていた声かけや愛撫等の世話をし、育児日記をつける。 (課外) 5 たまごの世話の様子、楽しさや苦労などの感想を発表し合う。 (1時間)

事例1 誕生・成長の喜び—たまごの世話をする体験を中心に—（三田市立武庫小学校第3学年）

4次 (5時間)	<p>○たまごを入れるタイムカプセルを作る。</p> <p>1 タイムカプセルを開ける時期を設定し、自分の未来に思いをはせる。 (1時間)</p> <p>2 未来の自分におくりたいものを考えるとともにタイムカプセルの用意をする。 (1時間)</p> <p>3 未来の自分に宛てた手紙を書き、家族からのメッセージと一緒にタイムカプセルに入れて完成させる。 (2時間)</p> <p>○手形の年表をお互いに見せ合い、感想を話し合う。</p> <p>1 友だちの年表を見ることで、自分と同様に友だちも大切に育てられていることに気づき、感じたことを友だちにメッセージにして送る。 (1時間)</p>
事後	<p>○自分の心の動きを振り返り、振り返りカードに記入する。</p> <p>○死に対する意識と自尊感情についてのアンケートに回答する。</p>



9 指導実践

(1) 1次第2時

ア 本時のねらい

- (ア) 家族から聞き取った成長のエピソードを発表し合い、自分の成長を実感する。
- (イ) 家族が心配した出来事について話し合い、家族の思いや願いに気づく。

イ 指導のポイント

- (ア) 感動の体験
家族の話から自分の成長を実感させる。
- (イ) 感性を育む
家族の話から自分の誕生や成長の喜びについて気づかせる。
- (ウ) 想像力の育成
家族の話から自分を支えてくれている人たちの思いや願いに気づく。

ウ 準備物

- ・子どもが家族等から聞き取りを記録したインタビューカード
- ・掲示用カード（ピンクとブルーを一人につき1枚ずつ用意する。裏にマグネットをはっておく）
- ・新しいインタビューカード

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

- (ア) 子どもの家庭環境をよく把握し、個別指導や家庭との連携など、十分な配慮をしておく。
特に家庭環境や親子関係の変化による子どもの変化に留意する。
- (イ) 子どもの聞き取り活動の進行状況を把握し、インタビューカードを点検しておく。
- (ウ) 聞き取り活動が進んでいない子どもには、個別に保護者等に連絡し、協力を依頼する。
- (エ) 通信等により学習の様子を保護者に伝え、理解と協力を得る。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 家族から聞き取ったエピソードをカードに書く。 ・初めて歩いたときみんなが大喜びした。 ・高い熱が何日も続いてとても心配だった。 ・入院して難しい手術をしたので、家族はすごく大変だった。	・2色のカードを配り、『嬉しかったこと・楽しかったこと』（ピンク）と『大変だったこと・心配だったこと』（ブルー）に分けて書かせる。
展 開	2 カードの内容を発表しながら黒板にはる。 ・発表はちょっとはずかしいな。 ・〇〇さんもぼくと同じようなことがあったんだな。 ・わたしのお母さんも同じことを言っていたよ。	・黒板を上下2つに分け、ピンクとブルーを分けてはらせる。 ・『嬉しかったこと・楽しかったこと』だけでなく、『大変だったこと・心配だったこと』もたくさんあったことに気づかせる。 ・友だちのエピソードを聞くことで親近感を持たせたり、共通する親の願いに気づかせたりする。

事例1 誕生・成長の喜び—たまごの世話をする体験を中心に—（三田市立武庫小学校第3学年）

展 開	<p>3 インタビューをした感想を述べ合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな話を聞いてとても楽しかったです。大事に育ててもらっていることがよくわかりました。 ・自分の覚えていないことを聞いておどろきました。 ・お母さんがそんなにわたしのことを思っていてくれてうれしかった。 ・いろいろな事ができるようになっていてすごかった。 ・お母さんがそんなにやさしかったとは思わなくて、びっくりした。 ・小さい時ご飯を食べなかったんだ。記憶になかったよ。心配させたんだな。 ・わたしが生まれてくるときはお母さんはしんどいと思いました。でもわたしを生みたかったのです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを育てる親の気持ちに気づかせる。 ・親の苦労や願いなど、今まで気づけなかったことにも目を向けさせる。
ま と め	<p>4 手形の年表づくりのために、さらにどんなことを誰に聞きたいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっとインタビューしたいな。 ・お腹の中にいたときのことももっと聞きたいな。 ・今度はお父さんにも聞いてみよう。 ・おばあちゃんにも電話で聞いてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの発表を聞かせることで、さらにインタビューへの意欲を持たせる。 ・胎児期のことも積極的に聞いてくるように勧めておく。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) インタビューカードは『嬉しかったこと・楽しかったこと』と『大変だったこと・心配だったこと』に分けて書く欄を作っていたので、両方のエピソードが聞き取れてよかった。
- (イ) 『大変だったこと・心配だったこと』のエピソードは初めて聞く内容が多かったようで、子どもは自分の命が大切に守られてきたことに気づいたようだった。
- (ウ) 聞き取り活動をする事自体が親子のふれあいの時間になり、大きな喜びを感じた子どもが多くいた。
- (エ) 命のはじまりの学習に向けて、今後は胎児期のエピソードを積極的に聞き取るようにさせた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感 動 の 体 験	○おうちの人たちにインタビューして、自分の成長についてどんなことを感じましたか。	
感 性 を 育 む	○おうちの人たちにインタビューして、うれしかったことや楽しかったことはありますか。 ○おうちの人たちにインタビューして、ふしぎだなと思ったことはありますか。	

事例 1 誕生・成長の喜び—たまごの世話をする体験を中心に—（三田市立武庫小学校第3学年）

想像力の育成	○自分を今まで育ててくれたおうちの人たちの気持ちを想像してみましょう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



(2) 3次第1時

ア 本時のねらい

家族への聞き取りを振り返って、子どもを育てる親や家族の気持ちを想像させ、たまごの世話をする体験活動への興味と意欲を持つ。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

たまごの誕生や世話をする体験活動を楽しみに待つ。

(イ) 感性を育む

家族への聞き取りを振り返り、親や家族の思いや願いを感じ取る。

(ウ) 想像力の育成

子どもを育てる親や家族の思いを想像する。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 自分自身に見立てたたまごを作り世話をする体験をして、方法、期間等子どもの実態に応じた内容を検討しておく。

(イ) たまご作りの材料を準備しておく。

(ウ) 子どもの家庭環境をよく把握し、個別指導や家庭との連携など、十分な配慮をしておく。

特に家庭環境や親子関係の変化による子どもの変化に留意する。

(エ) 通信等により学習の様子を保護者に伝え、理解と協力を得る。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 子どもを育てる親や家族の気持ちを想像して話し合う。</p> <p>お父さんやお母さん、家族のみんなが子どもを育てる時の気持ちはどんな感じだと思いますか？想像してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわいくてしかたがないよ。 ・うちの子が一番かわいい！ ・寝顔がとってもかわいいな。 ・手間がかかって大変だなあ。 ・いそがしくてしんどいな。 ・よく泣くのでゆっくり寝られない。 ・死んでしまうかもしれない、どうしよう！ ・この子のすきなことは何かな？ ・どんな子になるか楽しみだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族から聞き取った話を思い起こさせる。 ・家族のどんな話からそう思ったのかを考えさせる。 ・喜び、苦労、期待など様々な思いがあることに気づかせる。
	<p>2 たまごを作って世話をすることを知り、たまごの誕生や世話をすることを期待する。</p> <p>みんなもお父さんやお母さんになって、子どもを育てる親の気持ちを考えてみましょう。明日たまごを作って、しばらくお世話をして育てましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜたまごなのかな。 ・どうやってたまごを作るんだろう。 ・世話ってどんなことをするの？ ・明日たまごが誕生するんだ。 ・たまごをつくるのが楽しみだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たまごを入れる部屋や育児日記も後から作ることを伝える。

まとめ	3 たまご作りのために準備することを知る。	
	ぜったいに自分だけしか知らないひみつをひとつ、明日までに考えてきてね。 誰にも教えないで、心のなかにしまって持ってきてください。	
		・たまごを自分自身として意識づけるために必要なので、真剣に考えてくるように伝え、たまご作りへの興味を持たせる。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 子どもたちはたまごを作ることを知って最初戸惑ったようだが、助産師の「命のはじまりはみんな小さなたまごだった」という話が大変印象に残っていたので、すぐに納得し、活動に興味と期待を持たせることができた。
- (イ) 家族への聞き取り活動を十分行っていることが、学習を深めるポイントになると思われる。
- (ウ) たまごを自分自身として意識づけることが大切なので、指導者の言葉かけなどに工夫が必要である。今回は「自分しか知らない秘密」をたまごの中に埋め込んだこと、心臓に見立てた赤いハート形を入れたこと、一人ひとり違う模様にしたこと、振ると音が出るように作ったことなどが子どもの気持ちを引きつけるのに成功した要因の一つだと思われる。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	<input type="checkbox"/> たまごを作るのが楽しみですか。 <input type="checkbox"/> たまごにどんな世話をしたいですか。	
感性を育む	<input type="checkbox"/> 家族にインタビューをして、親や家族のどんな気持ちがわかりましたか。	
想像力の育成	<input type="checkbox"/> 子どもを育てる親や家族の気持ちをたくさん考えることができましたか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(3) 3次第6時

ア 本時のねらい

たまごの世話に向けて、たまごの呼び名やどんなことをしたいかを考えて発表し合い、世話の開始に期待と意欲を持つ。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

たまごの誕生に喜びを感じさせ、たまごとの生活を楽しもうとさせる。

(イ) 感性を育む

自分が親にしてもらったことやして欲しいことを思い起こさせながら、たまごにしたことを考えさせる。

(ウ) 想像力の育成

たまごを自分自身に見立てさせ、親しみや愛情を持たせる。

ウ 準備物

制作中のたまご（各自の手に持たせる）

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 子どもの家庭環境をよく把握し、個別指導や家庭との連携など、十分な配慮しておく。

特に家庭環境や親子関係の変化による子どもの変化に留意する。

(イ) たまごの様子に絶えず注意しておく。（乾燥によるひび割れなどはその都度手当てをする）

(ウ) 通信等により学習の様子を保護者に伝え、理解と協力を得る。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 たまごの様子を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だいぶかわいてきたな。 ・ひびが入ってきて心配です。 ・早くみがいてピカピカにしたいよ。 ・いつごろおうちに連れて帰れるんですか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの興味がたまごからそれないように、よく見える所にたまごを置き、毎日様子などを話題にしておく。
展 開	<p>2 たまごの呼び名を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>たまごをどんな名前と呼ぶか考えましょう。考えられたらその呼び方でいいか、たまごさんにも聞いてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくが赤ちゃんのころ家族に呼ばれていた名前にする。 ・たまごに聞いてみるよ。 ・たまごがこれでいいって言ってる！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・たまごは自分自身なので、本当の名前は自分の名前であることを確認しておく。 ・子ども自身がいつも呼んでもらって嬉しいと思う名前がいいことを伝える。 ・子ども自身が小さい頃呼ばれていた名前もいいことを伝える。

事例 1 誕生・成長の喜び—たまごの世話をする体験を中心に—（三田市立武庫小学校第3学年）

展 開	3 たまごにしたいことを考え、発表し合う。	たまごさんにどんなことをしたいですか。どんなことをしたらいいと思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども自身が親や家族にしてもらっていたことや、してもらって嬉しかったこと、また自分がしてもらいたいことをたまごにするように子どもの考えを促す。
	ま と め	4 育児日記のたまごのお世話のページに自分が決めたたまごの呼び名と世話をすることを書き込む。	
<ul style="list-style-type: none"> ・なでてあげる。抱っこしてかわいがってあげる。 ・毎晩一緒にねます。 ・一緒にごはんを食べます。一緒に遊んであげます。 ・家族に紹介します。おばあちゃんちに連れて行く。 ・大好きって言ってあげます。 			

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) たまごを作って完成を待つ間に、どんどん子どもの関心が高まっていくのを感じた。特に呼び名を考えた時、たまごの声が聞こえると語り始めた子どもが次々と現れ、この頃からたまごに深く感情移入していく子どもが多かった。
- (イ) たまごにしたいことを考えていく中で、子どもがこれまでに経験してきた家族との愛情の体験や、子どもの求めている家族からの関わりをはっきりと知ることができた。
- (ウ) 指導者自身のたまごの扱い方が子どもの感情移入の深さを左右する。子どもがたまごにひびが入ったと訴えてきた時は「かわいそうに、大丈夫よ」とたまごに話しかけ、すぐに「薬と手当て」と称して修理をほどこした。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	<input type="checkbox"/> たまごの誕生日にはどんなことを感じましたか。 <input type="checkbox"/> たまごの世話でどんなことが楽しみですか。	
感性を育む	<input type="checkbox"/> たまごにどんな世話をしたいですか。	
想像力の育成	<input type="checkbox"/> たまごのことをどう思いますか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(4) 4次第1時

ア 本時のねらい

- (ア) たまごとの別れについて考え、タイムカプセルを作ることを知る。
- (イ) タイムカプセルを開ける時期や何を入れるかを考えることで、未来の自分に思いをはせる。

イ 指導のポイント

- (ア) 感動の体験
たまごとの生活を振り返り、別れへの準備をさせる。
- (イ) 感性を育む
再びたまごと会う未来やこれからの生活に期待や希望を持たせる。
- (ウ) 想像力の育成
自分の未来やこれからの生活に思いをはせさせる。

ウ 準備物

子どもが書いているたまごの育児日記

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

- (ア) たまごの育児日記に目を通し、たまごに対する子どもの気持ちや接し方の変化を把握する。
- (イ) 通信等により学習の様子を保護者に伝え、理解と協力を得る。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 最近のたまごの様子を発表し合い、たまごとの別れの時期が近づいていることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気に育っているよ。 ・このごろたまごはよくねてるよ。 ・朝よくねていたから、家にねかせてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがたまごを学校に持って来るのを忘れてたり、たまごが眠りがちだと言いだめる時期を見逃したりせず、別れに向けての授業のタイミングをとらえる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> たまごは大きくなるまでに、しばらくじっとしておく時期が必要なんですよ。みんなのたまごさんも、そろそろその時期にきているようです。タイムカプセルに入れる準備を今日から始めましょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・えーっ！お別れなの？ ・たまごはどうなるの？ ・タイムカプセルはいつ開けるの？ ・ずっと一緒に暮らしてきたのにお別れなんていやだ！かなしいよ！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・助産師の話から、自分たちも母親のお腹の中で40週間じっとして外へ生まれるのを待っていたことを思い起こさせる。 ・胎児期は命を育てるために大切な時期であったということ思い起こさせる。

展 開	<p>2 タイムカプセルを開ける時期を考えて発表し合う。</p> <p>タイムカプセルをいつ開けるかは、自分で決めていいですよ。でも『みんなが大人になってから』というのが約束です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・25才。わたしは薬剤師になろうと思っているから、25才にはなっていると思うからです。 ・ぼくは野球選手になったとき。たまごにホームランを打っているところを見せたいから。 ・何歳になるかわからないけど、わたしが料理人になったときに開けてたまごにおいしい料理を食べさせてあげる。 ・少しでも早くたまごに会いたいから20才の誕生日に開けます。 ・自分の子どもが生まれたとき。たまごをわたしの赤ちゃんに見せてあげたいから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成人してからということを経験に考えさせる。 ・なぜその時を選んだのか理由も述べさせる。
	<p>3 タイムカプセルに何をに入れるか考えて発表し合う。</p> <p>タイムカプセルに入れるものは『たまごに必要なもの』と『未来の自分に今の自分からおくりたいもの』です。何を入れたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たまごのおふとんは絶対いる。寒いもん。 ・たまごがさみしがらないようにおもちゃも入れてあげたい。 ・手紙を書く。今の顔や友だちの写真も入れたい。 ・サッカーでもらったメダルを入れておいて、大人になったぼくに見せてあげたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムカプセルを開けるときの自分を思い描きながら考えさせる。 ・タイムカプセルを開けるときの自分が喜ぶものや嬉しいもの、必要なものや役立つものは何かを考えさせる。
ま と め	<p>4 タイムカプセルについて考えたことを振り返りカードに書き、今後の予定を聞く。</p> <p>たまごさんと過ごす時間が残り少なくなってきたので、あとしばらく心をこめて世話をしてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入れたいものを家族とも相談して用意するように伝える。 ・手紙は全員が書くことを伝える。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) たまごと別れると聞いて泣き出す子どもたちもあり、たまごに対して深い愛着を持っていることがわかった。
- (イ) たまごと再会するときの自分を思い描かせることで、別れのさみしさを未来への希望へと変えることができた。
- (ウ) 世話の期間が長くなるにつれて意欲を低下させている子どももいたが、別れというゴールを示すことによって新たな意欲を持たせることができた。
- (エ) 手紙には保護者からのメッセージ（未来の我が子に向けて）も加えるので、通信等で学習への理解を求め、早めに準備を依頼しておきたい。

事例1 誕生・成長の喜び—たまごの世話をする体験を中心に—（三田市立武庫小学校第3学年）

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	<ul style="list-style-type: none"> ○たまごといっしょにすごして、心に残っているできごとはどんなことですか。 ○タイムカプセルにどんなものを入れたいですか。 	
感性を育む	<ul style="list-style-type: none"> ○タイムカプセルをあけるときに楽しみなことは何ですか。 ○タイムカプセルをあけるまでにどんなことが楽しみですか。 	
想像力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○タイムカプセルをあけるときの自分についていろいろ想像してみましよう。 ○タイムカプセルをあけるまでに、自分にどんなことがおこるか想像してみましよう。 	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



10 実践を終えて

(1) 先生の振り返り

ア たまごの世話をする体験について

この実践の中心となった学習活動はたまごの世話をする体験である。中身をぬいた卵の殻を育てるという海外の学習プログラムを参考に、今回考案、実践を試みた。元々は成人向けのプログラムなので、小学校中学年に合わせて紙粘土で制作することにした。またこの年齢の子どもでは、たまごを自分の子どもとして意識づけにくいので、たまごは自分自身であるとした。たまごを大切に世話をするという子育ての疑似体験をとおして、自分が親や家族にしてもらっていることを再確認し、自分が大勢の人々の愛情を受けて大切に育てられていることや、自分の命のかけがえのなさに気づかせていくことを目標とした。

導入は前時の助産師の話とうまくつながることができた。助産師から卵子と精子の受精、受精卵の胎内での成長の様子などを中心に映像や模型を使って話していただいた。

制作の段階から、たまごを自分自身として意識づけられるように、中に入れるものや言葉かけなどを工夫した。たまごに愛着を持てるように呼び名を考え、部屋や布団を作ったり、毎日育児日記をつけたりして、学校でも家庭でも常にそばにおいて生活するようにさせた。

子どもたちは予想以上にたまごに感情移入していき、当初3週間程度と考えていた体験期間は冬休みをはさんで2ヶ月を越えた。その間の世話の様子やたまごへの気持ちを振り返る時間を何度か設定し、愛情を注ぐことの喜びや子育ての苦労や大変さに気づかせていった。

最後はたまごをタイムカプセルに入れ、大人になったときに開けるという設定にした。たまごと再会するときの自分を想像させることで、自分の未来やこれからの生活に期待や希望を抱かせ、自分の命を大切に生きていこうとする子どもたちを育てたいと願った。

子どもたちがたまごに自分を投影させている興味深い事例がみられた。例えば心臓疾患を持ち行動の制限がある子どもは、たまごを振ると聞こえる音を心臓の音と見立て、毎日心臓の音を聞いて「今日も元気に心臓が動いていました」と1日も欠かさず日記に記入していた。ちょっとしたことですぐに泣いてしまっていた子どもは、たまごの誕生日に「つよいたまごになるんだよ」とお祝いの言葉を贈り、ある日の日記に「きょうはころがったのに、泣かなかった。えらいぞ」と記していた。今の自分の姿だけでなく、自分のなりたいた姿をもたまごに託している事例は他にも多くみられた。

さらにたまごの世話を続けることで、子どもたちに様々な変化がみられた。友だちとのコミュニケーションが苦手な子どもが多かったが、みるみるおさまっていった。二人ともやや幼いところがあるので、たまごへの感情移入も深く、かわいがっていると気持ちが落ち着くのか、休み時間など掌でなでたり、ポケットの中に入れて触っていたりする姿がよく見られた。前者はたまごのお世話だけでなく親への聞き取り活動と合わせて大きな効果があった事例と考えている。

また保護者からも多くの感想が寄せられた。「今まで妹となかなか遊んでくれず、たまに遊んでいると思えば人形でもミニカーでも必ず闘いごっこでドカーン！とやっていたのが、たまごの学習を始めてから、落ち着いて人形遊びをしてくれて、一緒に人形の世話までしてくれている」「たまごの世話をしている間はとても穏やかだ」「大人びていると思っていた子がここまでたまごに夢中になるとは驚きだったが、一人っ子で今まで小さい子に接するのが苦手だったのに、進んで小さい子に声をかけるようになった」などの意見があった。たまごの世話をする様子を見て、気づきがあった保護者の感想も多くあった。「子育ては自立を目指すことだと信じて厳しく接していたが、子どもがたまごを扱うのを見て自分もそうして欲しいのだなあと感じ、久しぶりに抱っこしてあげたらとても落ち着いた」「自分がして欲しいことをたまごにすることで、私に伝えていることに気づいた。〇〇くんにもしようかと言ったら素直に膝に乗ってきた。まだこんなふれあいを求めていたということに私は気づかなかった」等である。

この他にも、手形の年表づくりの際に親や家族の気持ちを考えさせることが何度もあったが、自分の世話体験から考えてみるができる等、この実践の効果は様々な面で発揮されていると考える。今後も実践と考察を進めていきたい。

イ 親や家族への聞き取り活動について

今回の実践では自分の誕生や成長について、親や家族に聞き取りをしていくことが重要な学習活動となり、聞き取りの内容が子どもの学習への意欲や深まりを左右していった。子どもたち自ら「もっと親の話を聞きたい」と意欲が持てる学習の場を設定し、必要に応じて何度も聞き取りを繰り返した。すべての子どもが聞き取りを進められるように保護者への連絡は特に丁寧に行い、協力を求めるために個別に対応した家庭も多かった。

この聞き取り活動だけでも子どもの自尊感情が大きく高まることを今回の実践で感じた。自分の誕生や成長についての聞き取り活動は低学年でも行っているが、今回は特に「心配だったこと、大変だったこと」にも焦点を当てさせた。自分がこんなに大切にされていたということに気づいただけで問題行動が落ち着き、友だちとのトラブルもおさまった子どもがいる。どの子どもも親や家族に大切にされ、認められていることを知ることで喜びと満足感を得たようだ。また親にとっても、この機会に子どもと向き合うことでその成長を感じるとともに、子どもとの絆を再認識し、接し方を見直すきっかけとなっている。それが子どもの心の安定につながっていったと思われる。

ウ 保護者との連携について

聞き取り活動だけでなく、たまごの世話体験においても保護者の理解と協力が不可欠な実践であった。そのため「いのち通信」と名付けて学習の内容や目的、経過を保護者にもわかりやすく伝えるようにし、家庭での理解と学習への協力を求めた。また通信には保護者からの意見や希望を書いてもらう欄を設け、広く保護者の声を聞くようにした。いじめによる子どもの自殺等の社会状況と相まって保護者の命の問題への関心は大変高く、多くの意見や感想が寄せられ、それを実践に反映させることができた。

参観日での授業を行うとともに、学年集会でこの学習について説明を行った。助産師の授業は保護者への公開授業とし、授業終了後、助産師と保護者で命について語る会を設定したところ多くの参加者があった。

タイムカプセルには未来の我が子に宛てて保護者からのメッセージを入れることにし、協力を求めた。母親だけでなく、父親や姉からもメッセージを書いてももらった子どもも多く、家族で未来に思いをはせることができた家庭もあったようだ。

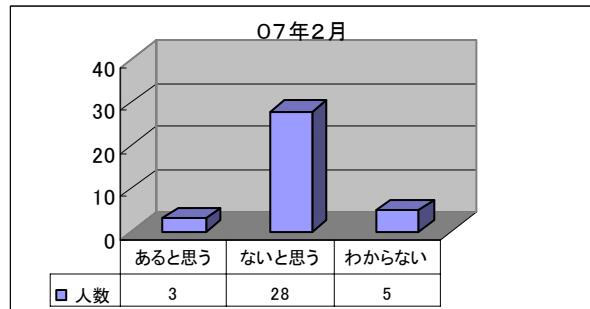
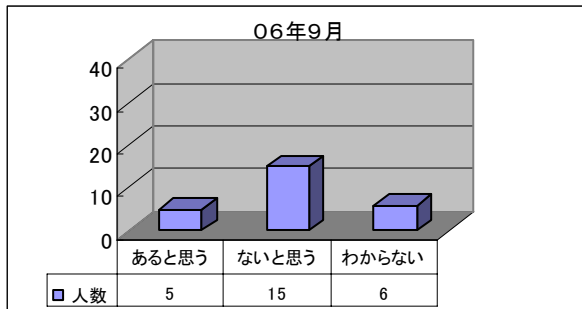
聞き取りについては、初めのうちは面倒なことだと思った保護者は多かったようだが、実践が進むにつれて実践のねらいに理解を示す保護者が増えていった。たまごの世話が始めると興味を持って子どもと一緒にたまごをかわいがったり、布団や袋を作ったりして積極的に関わってくれたりした。

(2) 今後の課題

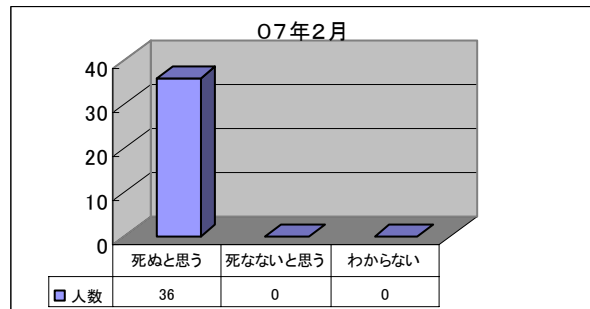
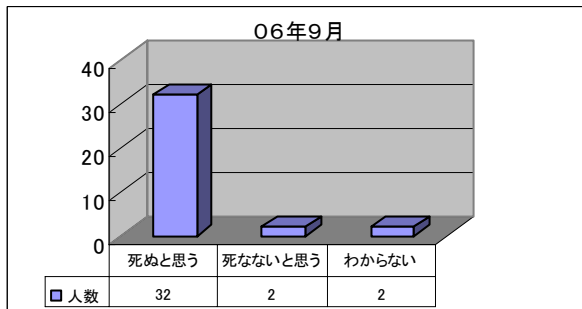
実践開始前の9月中旬と、実践が終了に近づいた2月上旬の2回にわたって、死に対する意識と自尊感情についてのアンケートを記名式で行った。この実践のねらいとして『命は失われると二度と取り戻せないものであること』と『自分の命が大切に育まれたものであること』を設定したので、アンケート結果を考察し、実践の成果と今後の課題とする。

主な設問の回答の変化

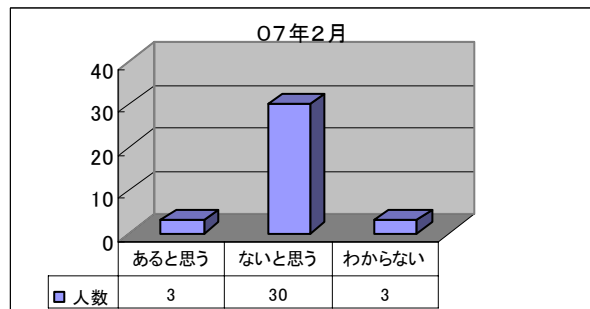
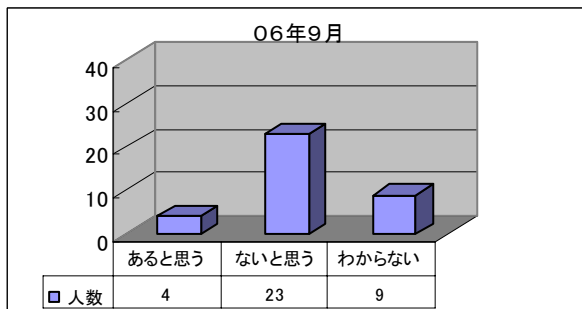
Q 死んだペットや生き物が生き返ることがあると思いますか？



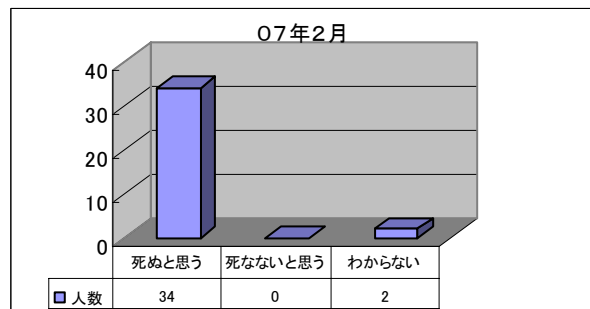
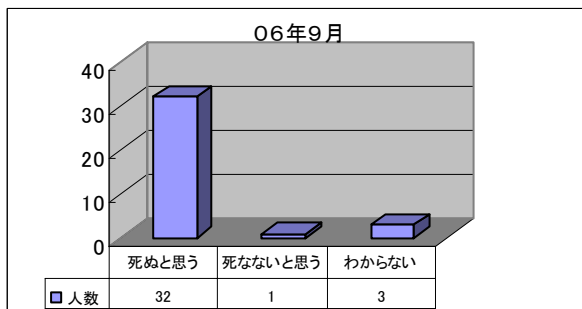
Q 人はいつか死ぬと思いますか？



Q 死んだ人が生き返ることがあると思いますか？

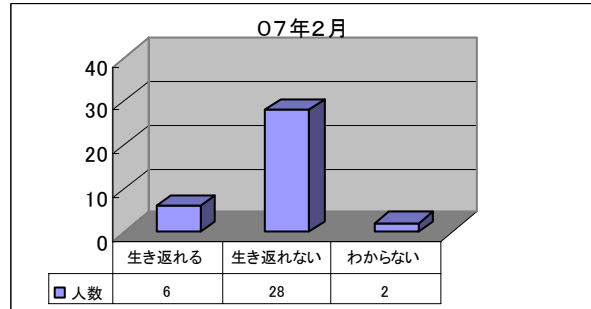
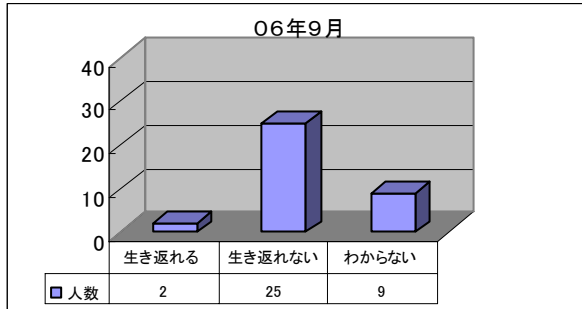


Q 自分はいつか死ぬと思いますか？

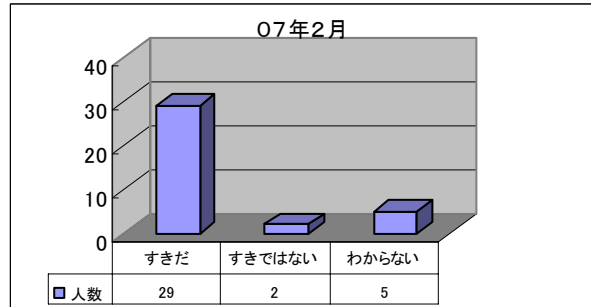
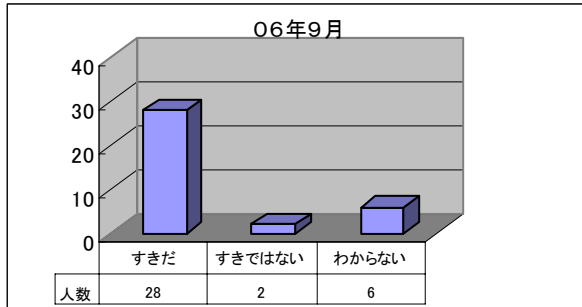


事例1 誕生・成長の喜び—たまごの世話をする体験を中心に— (三田市立武庫小学校第3学年)

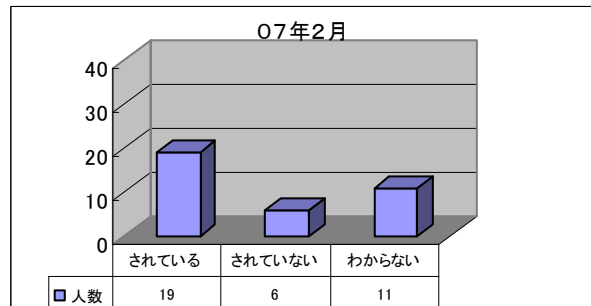
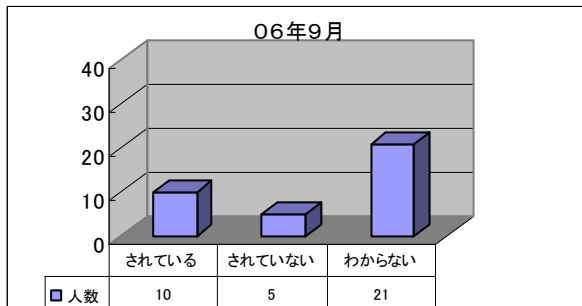
Q もし自分が死んだとしてもまた生き返れると思いますか？



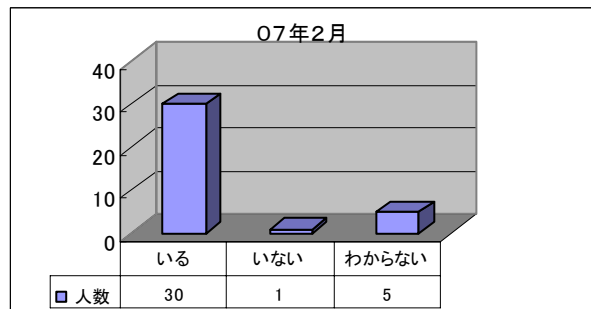
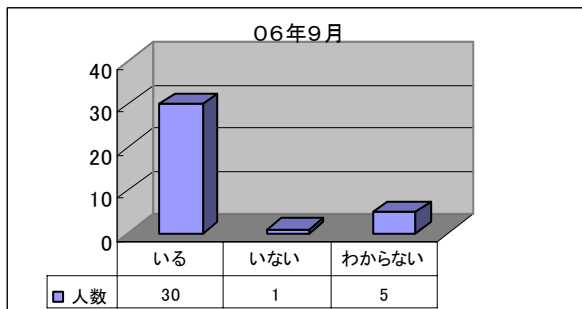
Q 自分のことが好きですか？



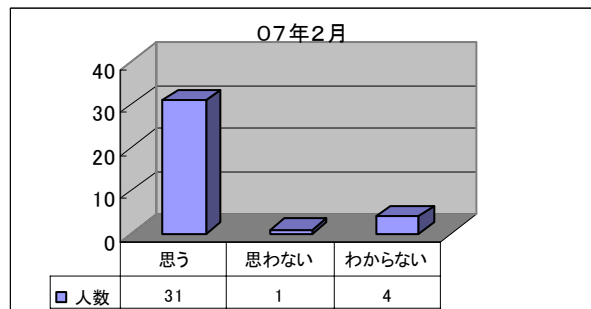
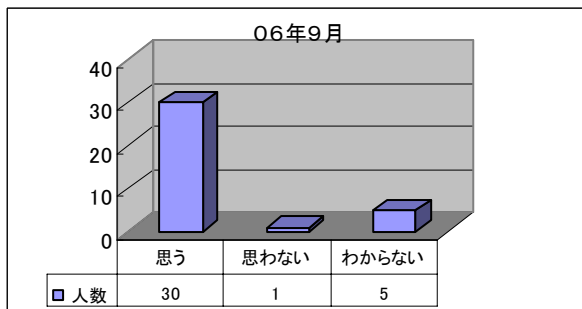
Q 自分は友だちから頼りにされていると思いますか？



Q 自分のことを大切にとおもってくれる人がいますか？



Q 自分は家族から大切にされていると思いますか？



死に対する意識に関する設問では、自分を含め全ての生き物が必ず死ぬことや、死んでしまえばその体は二度と生き返らないことなど、死の絶対性について問うた。全ての回答においてその認識ができたと思われる子どもが増えている。特に『人はいつか死ぬと思うか』の問いには「死なない」または「わからない」と答えていた子どもが4人いたが、2月には全員が「いつか死ぬ」という回答に変わった。どの設問でも「わからない」という回答が減っているため、この子どもたちが正しい認識を得ていったと思われる。

死については授業などで特に取りあげて指導したことはなかったが、聞き取りの中で親が子どもの死を恐れていることを感じ取ったり、助産師の話の中にお腹の中で死んでしまって生まれることができなかつた赤ちゃんの話があったりしたことが、理解を深める一助となったかもしれない。またこの半年間に祖父母の死に接するなどの生活体験が増えていることも考えられる。

『生き返り』についても「ない」との回答が増えているが、『自分自身の生き返り』については「ある」と答えた子どもが2人から6人に増えている。これについてはさらに考察が必要である。約3分の1の子どもが命の有限性や死の絶対性についての認識があやふやであるというスタートからの実践であったが、徐々に死に対する認識を確立しつつあるこの年令の子どもたちの意識の変化が読みとれた。

一方、自尊感情についての設問では数値的に大きな変化は認められなかった。『自分のことが好きか』『自分のことを大切にだと思ってくれる人がいるか』『自分は家族から大切にされていると思うか』に対する回答の数値はほとんど変わらない。

「自分のことが好きかどうかわからない」「大切に思ってくれる人がいるかどうかわからない」「家族から大切にされているかどうかわからない」等の回答の数は9月と2月でほとんど同じだが、入れ替わっている子どもも多い。特に「わからない」から「自分が好きだ」や「大切にされている」の回答に変わった子どもには、聞き取り活動やたまごの世話をする体験でのいきいきした学びや気づきがあり、問題行動が落ち着いていった事例も多い。しかし依然として「わからない」と答える子どもについては、親子や家族の関係や友だちとの関わり、子ども自身の発達の特徴、クラスでの居場所等の点で、それぞれの課題と思われるものがあり、今後の適切な見守りと導きが必要である。

今回の実践では子どもや保護者の反応に相当な成果を感じていただけに、自尊感情の高まりの点でアンケート結果にはっきりとした変化が認められなかったことが残念であった。このことから学習活動や体験活動で自尊感情を育てることの難しさを改めて思い知らされた。同時に親や家族との心のふれあい、友だちとの関わり、集団の中での連帯感や自己有用感が自尊感情を育てるために不可欠であり、その中でもとりわけ親や家族の役割が大きいことを感じた。今後命の大切さを実感させる教育を進めていくためには、学校は保護者や家庭にもっと積極的に発信し、親と教師がともに子どもと向き合う取組を心がけて行かねばならないと思う。

11 参考・引用文献

- ・星川ひろ子他 『あかちゃんてね』小学館 2005
- ・兵庫県教育委員会 『「命の大切さ」を実感させる教育への提言』 2006
- ・岸本喜代子他 『家族で語る性教育』かもがわ出版 2005
- ・ニコル・テイラー他 『赤ちゃんの誕生』あすなろ書房 1996
- ・本実践の「たまごの世話をする体験」授業については、関西学院大学社会学部の藤井美和准教授のワークショップを参考に実践したものです。